

課題研究論文

「大学におけるスポーツマネジメントのカリキュラムの現状と課題」

スポーツビジネスコースの特集にあたって

本学のスポーツビジネスコースは、スポーツビジネスの現場で求められるマネジメントやマーケティング、メディアに関する実践的理論を学習するコースである。スポーツに関わるあらゆる分野、プロ、企業や競技団体、マスコミなど、幅広く活躍する実務者の育成をしている。

今回のスポーツビジネスコースの課題研究論文では、この数年急激に増加する大学教育におけるスポーツマネジメントあるいはスポーツビジネスの分野における、教育内容に着目し、(1)日本の大学におけるスポーツマネジメント教育の現状と課題(杉岡宏高)、そして(2)日本の大学におけるスポーツマネジメントのカリキュラムの今後のあり方(小笠原悦子)を論じ、最後に大学教育の根底である学生の教育全般に目を転じ、活字メディアの視点から(3)新聞の役割：大学のNIE(Newspaper in Education：新聞を教育に生かす)を考える(的地修)という3つの論文を紹介する。

21世紀を迎えてから、オリンピック大会やFIFAワールドカップに代表されるようにスポーツのビジネス化が加速され、スポーツ情報あるいはスポーツコミュニケーションに対する考え方自体が大きく変化してきた。したがって、1990年代までのスポーツマネジメント教育の内容と、2000年以降のスポーツマネジメントの教育内容は時代のニーズに対応し大きく変化せざるを得ないものも存在する。しかしながら、変化してはいけない教育内容そして教育方法も必ず存在すると考えられる。そこで、本課題研究では、これらの点に留意しながら、それぞれの立場からの提案という構成で論じるものである。

本課題研究論文が、スポーツマネジメント教育に携わる人々の間で、発展的かつ積極的な意味で、今後の日本のスポーツマネジメント教育を考えるための論議の材料となれば幸いである。

小笠原 悦子